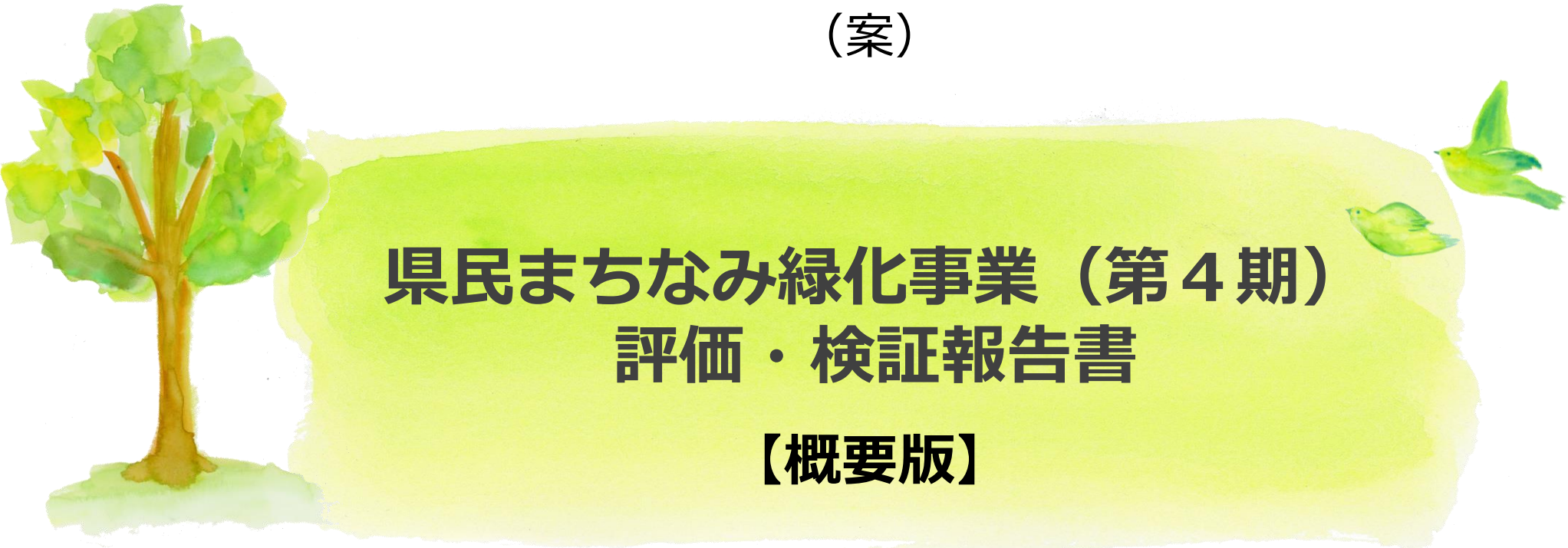


(案)



県民まちなみ緑化事業（第4期） 評価・検証報告書 【概要版】

注）本報告書に記載の事業実績等のデータは第4期の5か年（令和3～7年度）のうち4か年終了時点（令和6年度末時点）のもの。

※小委員会で取りまとめた評価・検証報告書（案）に令和6年度の実績を反映



I 第4期事業（R3～7）の概要

●事業目的

都市の環境改善や防災性向上を図ることを目的に、平成18年度から導入された県民緑税を財源に、住民団体等が実施する植樹や芝生化などの緑化活動を支援

県民緑税の概要（第4期）

県民緑税 （県民税均等割の超過課税） 個人：800円／年 法人：2,000円～80,000円／年 （資本金等の額による） 税込規模：5年間で概ね120億円 （個人100億円・法人20億円）	災害に強い森づくり （森林の防災面での機能強化） 県民まちなみ緑化事業 [予算：6.4億/年]
---	---

●事業概要（緑化資材費・施工費に対する補助）

補助区分	一般緑化 	校園庭の芝生化 	ひろばの芝生化 	駐車場の芝生化 	建築物の屋上・壁面緑化 	都心緑化 				
対象者	・自治会、婦人会、老人会など、地域を基盤として活動する住民団体 ・地域住民の参画により、緑化などのテーマを目的として活動する団体、グループ ・まとまった面積の緑化が可能な土地所有者・管理者等（個人、法人等） ※芝生化に係るメニューでは、上記に加え、芝生化箇所の利用・維持管理を行う複数の者で構成される団体（芝生化実行委員会）も対象					・法人、個人、住民団体、市町等で構成される協議会				
対象地域	<table><tr><th>住民団体が公共用地で実施する場合</th><th>個人・法人等が実施する場合</th></tr><tr><td> ・都市計画区域全域 ・緑条例に基づくまちの区域・さとの区域 等 </td><td> ・線引き都市計画区域のうち市街化区域 ・非線引き都市計画区域のうち用途地域が定められた区域 ・緑条例に基づくまちの区域 等 </td></tr></table> ※「校園庭の芝生化」は県下全域が対象					住民団体が公共用地で実施する場合	個人・法人等が実施する場合	・都市計画区域全域 ・緑条例に基づくまちの区域・さとの区域 等	・線引き都市計画区域のうち市街化区域 ・非線引き都市計画区域のうち用途地域が定められた区域 ・緑条例に基づくまちの区域 等	・人口集中地区に所在する駅から概ね1 km圏内の区域
住民団体が公共用地で実施する場合	個人・法人等が実施する場合									
・都市計画区域全域 ・緑条例に基づくまちの区域・さとの区域 等	・線引き都市計画区域のうち市街化区域 ・非線引き都市計画区域のうち用途地域が定められた区域 ・緑条例に基づくまちの区域 等									
(注) 補助率	住民団体…10/10 個人・法人…1 / 2				1 / 2	1 / 2				

(注)：補助区分に応じて、別途補助限度額あり



Ⅱ 事業実績

●第4期の目標と実績

項 目	目 標	実績 (R3～R6)	進捗状況 (4か年終了時点)
・ 住民団体による緑化活動の支援	800団体／5年	860団体／4年	108%
・ 校庭の芝生化の推進	250校庭／5年	85校庭／4年	34%
・ 人口集中地区における緑化面積	35ha／5年	15.8ha／4年	45%
・ 人口集中地区以外の緑化面積	30ha／5年	20.9ha／4年	70%

●年度別事業実績

	第1期	第2期	第3期	第4期						合 計
	小 計	小 計	小 計	R3	R4	R5	R6	R7	小 計	
件数 (件)	945	939	1,103	246	264	216	187		913	3,900
【うち住民団体】	【621】	【818】	【1,028】	【233】	【254】	【200】	【173】		【860】	【3,327】
一般緑化	476	495	505	126	151	123	107		507	1,983
まちなか花壇	-	-	-	4	0	1	0		5	5
校庭の芝生化	174	157	123	29	26	14	16		85	539
ひろばの芝生化	-	134	235	40	42	32	20		134	503
駐車場の芝生化	239	128	234	49	44	46	43		182	783
屋上・壁面緑化	56	25	4	2	1	1	1		5	90
(大規模)都心緑化	-	-	2	0	0	0	0		0	2
事業費 (千円)	2,628,290	2,234,562	2,870,108	632,317	627,384	586,248	571,801		2,417,750	10,150,710
緑化面積 (ha)	61	65	64	11	10	8	7		37	227
植樹本数	362千本 (38ha)	314千本 (34ha)	254千本 (32ha)	47千本 (5.7ha)	50千本 (5.6ha)	42千本 (4.6ha)	32千本 (3ha)		171千本 (19ha)	1101千本 (123ha)
芝生化面積 (ha)	23	31	32	6	5	4	4		18	104

- ・ 令和3～6年度で913件、約37ha（約17万本）の緑化が行われた。
- ・ 第1期事業からの累計（H18～R6年度の19年間）では、3,900件、約227haの緑化が行われた。



Ⅱ 事業実績

一般緑化

R3～6実績： 507件、16.8万本、19.0万㎡



地域のコミュニティセンターを緑化（西宮市）



地域住民による植栽活動（朝来市）

校庭の芝生化

R3～6実績： 85件、4.5万㎡



小学校のグラウンドを芝生化（宝塚市）



こども園の園庭を芝生化（丹波篠山市）

ひろばの芝生化

R3～6実績： 134件、9.1万㎡



地域の広場を芝生化（加西市）



地域住民による芝張り（穴栗市）

駐車場の芝生化

R3～6実績： 182件、3.9万㎡



自治会館の駐車場を芝生化（神戸市）



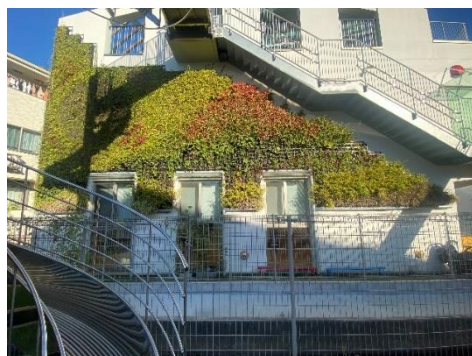
学校内の駐車場の芝生化（稲美町）

建築物の屋上・壁面緑化

R3～6実績： 5件、410本、979㎡



植栽による屋上緑化（尼崎市）



基盤造成型による壁面緑化（明石市）

都心緑化

※R3～6は実績なし（写真はいずれも第3期のもの）



まちなかに里山の風景を再現（川西市）

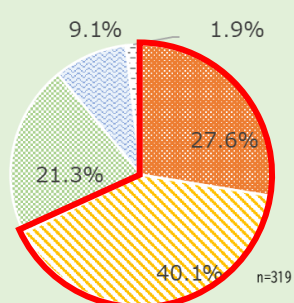
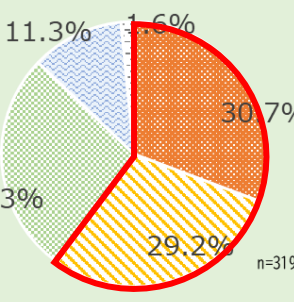
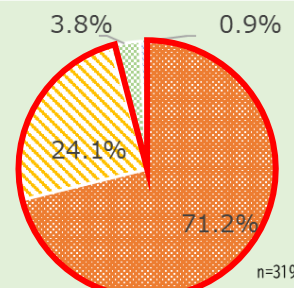


工業地帯の道路沿道等で緑地整備（尼崎市）



Ⅲ 第4期事業の効果

●緑が持つ公益的な効果（1/2）

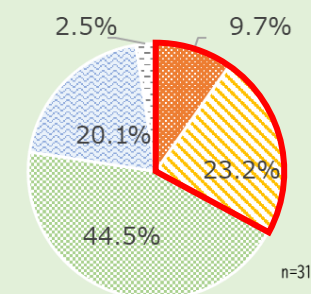
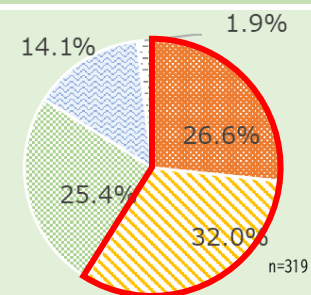
分類		事業による効果 ※数値は第4期（R3～6の4か年分）の実績	事業実施者による効果の実感度合い（アンケート結果）				
			1:当てはまる	2:まあ当てはまる	3:あまり当てはまらない	4:全く当てはまらない	無回答
環境改善	ヒートアイランド現象緩和	・約37haを緑化 ⇒地表面温度の低下に寄与 ・約11千本の高木を植栽 ⇒木陰が熱中症の危険性の低下、体感温度の低減、快適性の向上に寄与 ※事業実施箇所での暑さ指数（WBGT）を測定したところ、緑化箇所（木陰内）は非緑化箇所に比べ平均2.6℃低い結果となった ・都市部で870㎡の屋上・壁面緑化を実施 ⇒冷房消費電力の削減が人工排熱の減少に寄与	Q：木陰や緑で覆われた場所が増え、涼しく感じるようになった ⇒68%  Q：砂埃や騒音の軽減など、環境が良くなった ⇒60% 				
	二酸化炭素低減	・約11千本の高木、約159千本の低木を植栽 ⇒ガスタンク換算で年間当たり39基分（1,013t-CO2）分に相当する二酸化炭素が吸収され、温室効果ガス低減に寄与					
	防塵、大気浄化、騒音低減	・防塵、大気浄化、騒音低減に一定程度、寄与					
景観向上		・事業実施件数 913件 ⇒緑視率が上がり、景観向上に寄与 	Q：緑ができたことで敷地内や周辺の、景色や見映えが良くなった ⇒95% 				



Ⅲ 第4期事業の効果

●緑が持つ公益的な効果（2/2）

分類		事業による効果 ※数値は第4期（R3～6の4か年分）の実績	事業実施者による効果の実感度合い（アンケート結果）				
			1:当てはまる	2:まあ当てはまる	3:あまり当てはまらない	4:全く当てはまらない	無回答
防災性向上	都市型水害発生リスク低減	- 地表への植樹や芝生化により、都市部において浸透面積が18ha増加 ⇒25mプール換算で1時間当たり24杯分（約9千m³/h）に相当する浸透容量が増加し、都市型水害の発生リスクの低減に寄与	Q：雨水が地面に染みこみやすくなった・水たまりができにくくなった ⇒59% Q：火災時の熱の遮断や延焼の防止などに役立つと感じる ⇒33%				
	避難経路確保と延焼防止・熱遮断	- 建物に近接して植栽された高木 約9.4千本 - 建物に近接した箇所での緑化件数 318件 ⇒地震時の避難経路の確保の一助になることを期待 ⇒植樹による輻射熱の遮断効果によって、火災時に人が安全に移動できる区域が約10千m²増加したと推計され、円滑な避難に寄与するものと考えられる					



●費用対効果（R3～6）

投資額（事業費）24億1,800万円に対して、公益的効果の効果額は55億3,200万円※と推計

※効果額内訳

ヒートアイランド緩和効果	緑化により低減された熱エネルギーを、空調機器を使用して低減した場合の電気料金に換算	3億900万円
二酸化炭素低減効果	緑化により低減されたCO2を、Jクレジット入札販売による落札価格で購入した場合の金額に換算	800万円
環境改善・景観向上効果	先行研究に基づき、まとまった緑地整備が周辺地価を上昇させるという仮定の下、地価の上昇額に換算	27億5,600万円
都市水害防止効果	緑化により増加した地表面の浸透能力と同程度の雨水貯留槽を整備する場合の建設費用に換算	8億600万円
避難空間確保効果	緑化により増加した避難上安全な区域と同面積の土地の価格に換算	16億5,300万円

計55億3,200万円

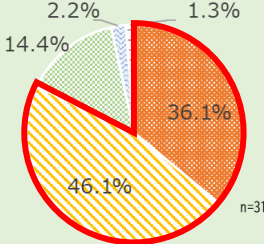
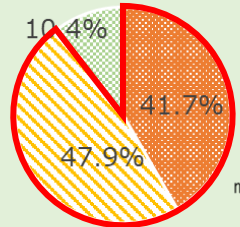
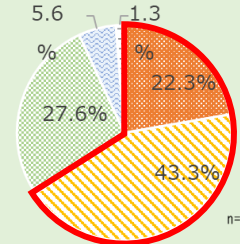
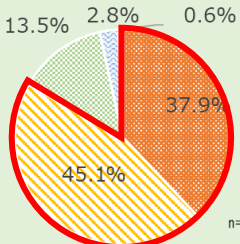
+

上記のほか波及的効果（p.6～7）による経済効果あり



Ⅲ 第4期事業の効果

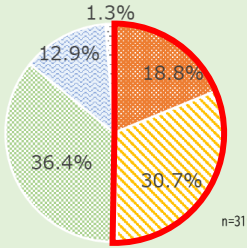
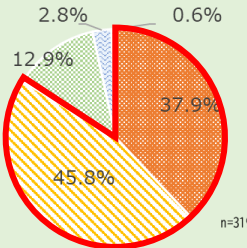
● 緑や緑化活動による波及的な効果 (1/2)

分類	事業による効果	事業実施者による効果の実感度合い (アンケート結果)
		1:当てはまる 2:まあ当てはまる 3:あまり当てはまらない 4:全く当てはまらない 無回答
環境学習	地域に緑が増えたり、芝張りや植樹を県民自ら行ったりすることで、自然に触れる機会を提供・創出  園児らによる芝張り	Q: 花や緑にふれたり、鑑賞したり、興味を持ったりするようになった ⇒82% 
教育環境向上	校庭の芝生化の実施により、外遊びの増加や、けがの減少・軽症化、生き物への興味関心の向上など、教育環境向上に寄与	Q: 子どもたちが屋外で遊ぶ機会や、授業などで屋外を利用する機会が増えた(校庭の芝生化) ⇒90% 
コミュニティ形成	植栽や維持管理、緑化場所を活用した交流を通じて地域のコミュニティ形成に寄与  地域住民による維持管理	Q: 地域の人や来訪者と会話や交流する機会が増えた ⇒66% 
心理的效果	事業により創出された緑や、緑に関係する様々な活動が、癒しや安らぎを提供	Q: 緑を見たり、過ごしたりすることで、癒されたり、和むようになった ⇒83% 



Ⅲ 第4期事業の効果

● 緑や緑化活動による波及的な効果 (2/2)

分類	事業による効果	事業実施者による効果の実感度合い (アンケート結果)	
生物多様性の確保	事業により創出された多種多様な緑が、生き物の生息・生育環境を豊かにし、生物多様性の確保に貢献  まちなかの事業実施場所で観察された蝶	Q：鳥や昆虫などの生き物を見たり、鳴き声を聞いたりする機会が増えた ⇒50%	 n=319
健康増進	事業で整備された緑地を、地域住民等が散歩やジョギング、レクリエーションなどの場として活用  芝生化した広場でのグラウンドゴルフ		
地域への愛着・誇り	事業で創出された緑が、自分たちのまちや施設に対する愛着・誇りの醸成に貢献	Q：花や緑のある自分のまちや施設に愛着や誇りを持てるようになった ⇒84%	 n=319

IV 事業実施者アンケートの結果

●第4期事業実施者へのアンケート結果概要

事業活用の 満足度・要望	○事業活用の満足度は95%で、極めて高い。 ・地域への波及効果として、ゴミの減少、地域の結束・交流等が感じられている。 ○事業への要望として、各メニュー7～8割の実施者が維持管理費用への補助を望んでいる。 ・枯損した樹木や芝生の補植費用、維持管理用具の修繕費用などへの補助を望む声が多い。
花と緑の 専門家講習会 ※住民団体が実施する 場合は原則として事 業実施前に受講	○講習会では、各メニュー5～7割の実施者が維持管理に関することが参考になったと回答。 ・このほか、植栽計画や植栽技術も参考となっている。 ○住民の結束や意識の向上、活動の広げ方・継続方法などについて聴きたいという希望が多い。 ・一般緑化・校庭の芝生化では、定期的に受講したいという希望も一定割合ある。
維持管理の 状況	○全メニューにおいて緑地は概ね適正に維持管理されている。 ○日常的な維持管理は全体の9割近い実施者が自ら行っている。 ・校庭の芝生化は、学校への依存度が高く（保護者や地域住民の関与が少ない）、業者委託の割合も約2割とやや高い。 ○各メニュー6～7割の実施者が異常気象（猛暑等）への対応に苦労している。 ・芝刈りや除草の手間、水やりの手間などを課題に挙げる実施者も多い。

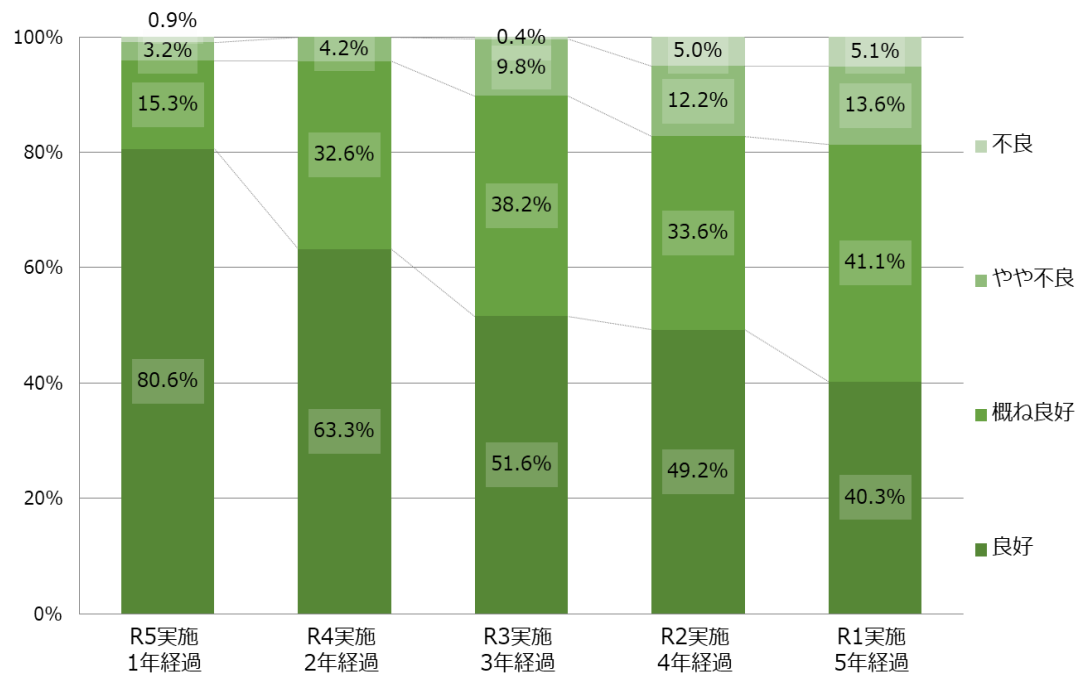
事業実施者アンケート実施概要

対象	第4期（令和3～5年度）の事業実施者すべて ※475者（団体）
内容	事業への満足度や要望、花と緑の専門家講習会の感想、維持管理の状況等について、アンケート形式で調査
実施方法	Web（307者）及び紙（168者）の併用
回答期間	令和6年10月15日～11月5日
回答率	約67%



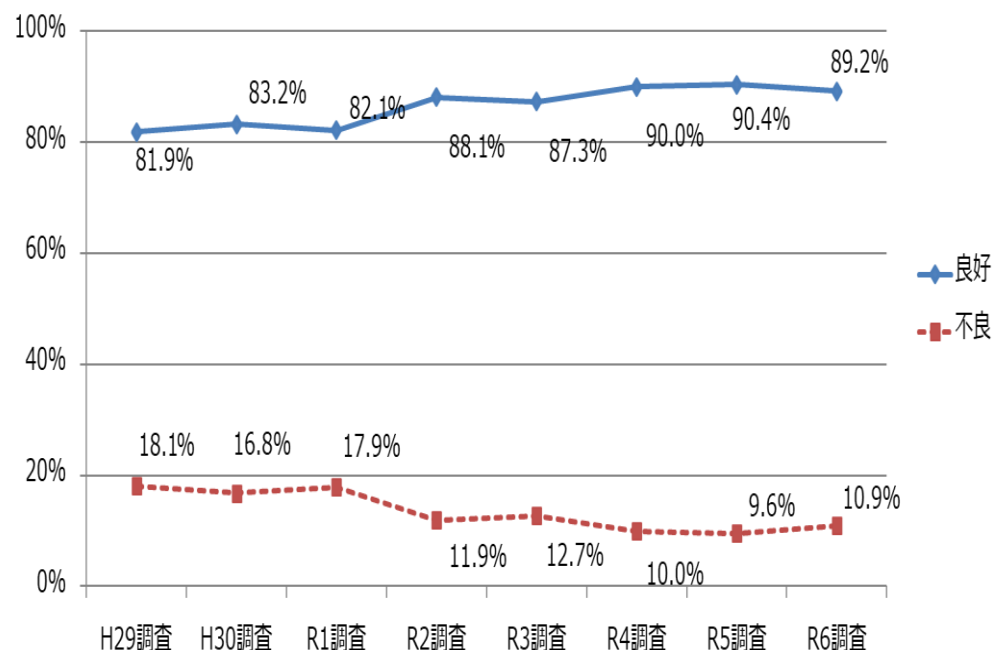
V 生育状況調査の結果

●事業実施年度別の生育状況（R 6 調査）



良好（評価1）及び概ね良好（評価2）の箇所の割合は5年経過時点でも8割を超え、事業完了後も概ね良好に維持できている。

●生育状況調査結果の推移（H29～R 6 調査）



R2調査以降、ほぼ横ばいで推移しており、高い割合で良好（評価1）及び評価2）な生育状況を保っている。

生育状況調査（R 6）概要

対象	令和元年～令和5年度に事業を実施した1,200箇所		
調査方法	○各県民局駐在の「緑のパトロール隊」が巡回し、植生の状況を目視で調査		
	○生育状況について以下の4段階で評価		
	①100%の植栽等が良好に生育	…評価1（良好）	} ⇒ 評価2以上（良好又は概ね良好）であれば、良好に維持できていると判断
	②100%未満80%以上の植栽等が良好に生育	…評価2（概ね良好）	
	③80%未満50%以上の植栽等が良好に生育	…評価3（やや不良）	
	④良好に生育している植栽等が50%未満	…評価4（不良）	



VI 次期事業展開の方向性

●第4期事業の評価と次期事業に向けて

■令和3～6年度の4か年で、住民団体等に対して900件超の補助を実施し、約37ha・17万本の緑を新たに創出

- ▶緑の創出によって、**都市環境の改善**（ヒートアイランド現象の緩和、二酸化炭素の削減等）、**まちなみ景観の向上**、**防災性の向上**（都市型水害リスクの低減等）などに寄与
- ▶あわせて、緑や緑化活動を通じた**環境意識の向上**、**コミュニティの活性化**、**癒し・安らぎの提供**、**地域への愛着の醸成**など、さまざまな波及効果も創出
- ▶事業実施者や地域住民等もこれらの効果を高い割合で実感

■一方、ひょうご花緑創造プランの基本目標として掲げた都市部における緑地割合は、達成が難しい見通し

- ▶市街化区域の緑地割合 30.6% (H25) → 28.8% (実績) < 目標：30%維持 (R7)
- ▶人口集中地区の緑地割合 23.9% (H25) → 24.8% (実績) < 目標：25.0% (R7)

■夏季の異常高温の常態化、豪雨等による気象災害の多発など、近年、地球温暖化に伴う気候変動による影響がより深刻に

都市部では目標とする緑地が十分に確保されておらず、環境改善や防災性向上のため、緑化の取組が継続的に必要



緑を取り巻く**社会潮流**や**事業の課題**を踏まえた上で、引き続き「**県民まちなみ緑化事業**」を推進



VI 次期事業展開の方向性

● 緑を取り巻く社会潮流・事業の課題

緑を取り巻く社会潮流

人口減少・高齢化

官民連携

well-beingの向上

グリーンインフラの推進

気候変動（異常高温・豪雨）

生物多様性の確保

ESG投資の拡大

国による優良緑地認定制度の創設

事業の課題

1 まちの中心部における事業面積の伸び悩み

- ・人口集中地区（DID地区）における本事業活用による緑化面積は、目標（35ha／5年）に対して実績（15.8ha／4年）が低調。人口集中地区における面積割合も約4割に留まる。
- ・第3期に比べ、人口集中地区での補助件数は2割程度増加している一方で、1件当たりの平均 緑地面積が4割程度減少しており、結果として人口集中地区で事業面積は伸びていない。

2 民間事業者による事業活用が低調

- ・民間事業者（法人）による申請は全体の3％程度に留まる。

3 「住民団体」の要件が多様なコミュニティ形態とミスマッチ

- ・現行制度では、10/10補助を受けることができる「住民団体」は、概ね10人以上で構成され、かつ、自治会等の地縁型組織であるか、又は地域住民の参画のある緑化等の活動団体であることが要件。
- ・一方、県民モニター調査によると、20代以下の世代は、希望する活動形態として「友人・知人等、数人グループで取り組む」を回答した割合が高い。

4 一部補助メニューの実績が低調

- ・「校園庭の芝生化」…第4期の目標（250校園/5年）に対して実績（85校園/4年）が低調。
- ・「建築物の屋上緑化・壁面緑化」…第4期での活用実績が5件に留まる。
- ・「都心緑化」…第4期での活用実績がない。

5 緑の維持管理に対する負担感

- ・事業実施者の9割が維持管理に関して何らかの苦労・課題（人手不足や除草・水やりの手間等）を感じている。
- ・中でも、7割近くの実施者が異常気象（猛暑等）への対応を課題に挙げている。

次期事業（第5期）方針

社会が直面する環境問題等を緑がもつ多面的機能によって解決に導くため、**多様な実施主体による緑化活動を幅広く支援し、都市の緑の量的拡大を図りつつ、質的向上をより一層推進**



VI 次期事業展開の方向性

●次期事業展開の方向性

1 多様な実施主体による事業活用の推進

- 民間事業者による緑化活動に対する積極的支援
- 非地縁型コミュニティによる取組への支援（「住民団体」要件の見直し）
- 市町が住民や民間事業者と連携協力して実施する緑化事業への幅広い支援



企業によって整備された
店舗併設の芝生広場

2 質（期待される効果）の高い都市緑化に対する重点支援

- 都市部（人口集中地区、市街化区域等）における質の高い緑地整備に対する補助拡充
例：・優良な緑地整備（※） ※緑地の規模や高木の本数等から判断
・駅周辺や幹線道路沿道など、多数の者が往来する場所での緑化
・空き地、遊休地等の利活用（ポケットパーク整備等） 等



まちなかの未利用地を園庭
として整備し地域にも開放

3 より活用しやすい制度への改善

- 全ての補助メニューがより多くの者に活用されるよう、補助要件、補助対象等を再整理
例：・補助対象となる要件（視認性、外部への開放性等）の再整理
・既存緑地のリニューアル（高質化）に対する補助
・将来、市民花壇、都市農園等に供される植栽基盤整備に対する補助 等



公園を利用した
都市型市民農園

4 異常高温対策に寄与する緑地整備への支援

- 夏季の異常高温の対策に寄与する緑の整備に対する積極的支援
例：・クールスポットになりうる樹木（緑陰施設）等への補助
・アスファルト舗装から緑地に転換する場合の補助拡充 等



クールスポット
となる樹木

5 持続可能な維持管理のための支援

- 維持管理の負担を軽減する用具（自動散水装置、ロボット芝刈り機等）の設置・導入を積極的に支援
- 枯損した緑の復旧、故障した用具の修理等への支援
- 継続的に専門家の助言を受けられる環境・体制づくり、団体の連携・交流の場づくり



GPSで管理される
ロボット芝刈り機